

令和7年3月24日
東北森林管理局

令和6年度第4回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について

林野庁東北森林管理局では、需要急変時における国有林材の供給調整機能を発揮させるため、供給調整の必要性や調整を実施する際の方法等について、学識経験者、森林林業関係者、木材産業関係者から御意見をお伺いし、今後の国有林材の供給調整に役立てる取組を行っております。

この度、標記委員会を下記のとおり開催致しましたので、当局ホームページで概要等を公表致します。

記

1 日 時 令和7年3月3日（月） 15：00～17：00

2 開催場所 東北森林管理局 2階 大会議室
（秋田市中通5丁目9-16）

3 検討結果

令和6年度第1回、第2回の東北森林管理局供給調整検討委員会において、柔軟な供給調整をするよう委員会報告を行ったところ、国有林では、立木販売における搬出期間延長、立木販売の公告スケジュールの先送り等による公告量の調整が行われ、実施結果の報告があった。どちらの取り組みも、東北地方の木材需要環境が厳しい中において、買受者が急いで伐る必要がなくなったこと、地域の実情に即した柔軟な対応となったことから、供給調整が不透明な市況に一定の効果をもたらしたものと評価する。

また、併せて、昨年9月に協定を締結したシステム販売において、山元から丸太を直接製材工場等に運搬し、自動選別機による検知を行う物件、一定の割合以上を東北森林管理局管外へ移出することを条件とした物件を設定、試行しており、その結果についても報告が行われた。

現在、原木については、寒伐り材の時期であるが、原木出材量は例年に比べ少なく、一部地域では降雪量が多い影響で素材生産が滞っている。そのため、各製材工場などから求められる原木需要を満たしていない状況で、原木価格は高値傾向になっている。

一方、製品の荷動きは、関東などの消費地向けの出荷は増えているが、東北圏内の需要は停滞したままであり、製品価格が上がらないなか、原木高・製品安の状況が続いている。

また、合板メーカーは、引き続き生産調整、原木の受け入れ制限を継続しているが、山側からの出材が少ないことから原木在庫が減少傾向にある。

市況動向は、今委員会で、「原木価格の高値傾向は、需要の増ではなく、原木の供給減による影響が大きい。需要の下支えが無いいため市況の盛り上がり感が無い。」という意見があったとおり、依然として先行きが不透明であるといえる。

このことから、引き続き各製材工場などにおける集荷・生産・出荷状況などの動向を引き続き注視する必要がある。

以上のことから、国有林に対しては、「現時点での供給調整の必要性はないが、引き続き管内の市況や需給動向を注視するよう求める。」と報告する。



国民の森林・国有林

お問い合わせ先

林野庁 東北森林管理局 森林整備部 資源活用課

担当者：企画官（花粉発生源対策）

電話：018-836-2496（直通）